

公財 全高農 農場協会新聞

第3号

発行所
公益財団法人
全国学校農場協会

東京都渋谷区
円山町2-20

第60回農業教育研究協議会

特集号

開会挨拶

公益財団法人

全国学校農場協会

理事長 日置 司明

代読 常務理事

友光 俊一



友光俊一 常務理事

第60回農業教育研究協議会
がハイブリッドで開催

この3年有余に及ぶコロナ禍生活は、産業・経済は基より人々の意識や日常生活においても、デジタル化・リモート化やネット社会の拡大と浸透、働き方の多様な変化の進展など厳しく大きな変化をもたらしています。特に農業現場においては、AIや高度情報機器を駆使した生産管理システムの導入によって集約化、大規模化が進捗しているとのことであります。このような変化の中で、将来は農業の従事者

国や農業経営者を目指して農業法人や大規模農家への就農を希望してくる若者が増えつつあると言った、嬉しい状況もあるとのことでありあります。

当公益財団法人全国学校農場協会と全国高等学校農場協会は、社会の変化や農業現場の動向、農業教育の現状や課題を踏まえながら、特に新しい時代の農業に対応した農業教育環境、並びに農業教育条件の改善と充実に取り組んで参ります。この度も、緊急を要する重点要望事項4項目を要望書としてまとめ、150名の会員各自がそれぞれ関係方面への要請活動を展開すると共に、日頃から力強いご支援とご協力を頂き、感謝を申し上げている「農林水産高校を応援する会」の国会議員の先生方に要望事項の内容と現状を説明するなど、積極的に要請活動を実施して参ります。当農場協会は、今後も会員の日常の教育活動の支援は基より、研究・研修並びに教育事業開催等に積極的に取り組み、わが

国の農業と農業教育の振興・発展・充実に全力で取り組んで参ります。

先生方のご協力とお力で収穫の多い研究協議会にして頂きますようお願い申し上げます。と共に日頃の農場協会へのご協力とご支援に心からお礼申し上げ挨拶いたします。（詳細については研究集録に掲載）

講演

1 「高等学校教育の現状と課題について」

講師 文部科学省初等中等教育局 参事官（高等学校担当） 田中 義恭

2 「新規就農対策について」

講師 農林水産省 経営局 就農・女性課長 尾室 幸子

☆紙面の都合上詳細な内容については研究集録（第61号）に掲載させていただきます。

全国理事会

進行・議長（全高農会長）

1 令和5年度事業中間報告

2 令和6年度事業計画（案）

人類が直面する問題に答える。それが実学。

温暖化、資源枯渇、食料危機、絶滅危惧種の増加など研究対象は農学を起点に、

あなたが想像する以上に広がりを見せています。

このような問題に答えていく学びや研究を在学中に体験することを実学と呼んでいます。

人類が直面する問題に答えていく人材を世の中に還していくことが東京農大の普遍的な使命なのです。



東京農業大学
TOKYO UNIVERSITY OF
AGRICULTURE
〒156-8502 東京都世田谷区福生1-1-1
<https://www.noda.ac.jp/>

農学部

応用生物科学部

生命科学部

地域環境科学部

国際食料情報学部

生物産業学部

(1) 令和6年度第73回全国大会並びに研究協議会計画(案)

(2) 令和6年度第68回農業実驗実習講習会計画(案)

各支部長

(3) 令和6年度支部大会計画(案)

各支部長

(4) 令和5年度農業教育功勞者表彰について

(事務長)

3 令和5年度全国農業高等学校 学校要覧会員名簿について (事務長)

IV 協議 I

1 振興調査に関する報告・協議

① 実験実習費に関する調査

② 農場基盤及び施設・設備の整備に関する調査

③ 農業最先端技術(スマート農業等) 研修に関する調査

④ 各学科の教員配置数に関する調査

⑤ 実習助手の実習教諭免許取得に関する調査

2 農業教育振興に関する協議・要求・要望

V 協議 II

農業教育関係機関等との協議「農林水産高校を応援する会」

VI 陳情

国会議員並びに関係省庁

〔第2日目〕

I 研究発表・協議会(研究局)

4 分科会における代表発表

第1分科会

生産経営系分科会

「IoT・AIを活用したデータサイエンス教育に関する研究」

高知県立幡多農業高等学校 教諭 安部 誠一郎

第2分科会

環境創造系分科会

「未来を見据えた環境系学科の教育活動が果たす役割について」

国際化に対応する環境系学科における学校農場はいかにあるべきか

北海道岩見沢農業高等学校 教諭 三品 歩

第3分科会

資源活用系文科会

「高大連携、地域連携を核とした食品系学科の取組」

「もったいないから」スタートする研究活動」

広島県立西条農業高等学校 教諭 黒川 元治

第4分科会

学校経営系分科会

「地域の未来を創造する力をはぐくむために」

徳島県立阿南光農林高等学校 教諭 中村 亜津紗

II 講演

演題 「『酪農学園が目指す、唯一無二の教育』」

「これまで、これから」講師 学校法人酪農学園 理事長 高島 英也



(講師 高島英也 先生)

「酪農学園は普通の大学や学校ではありません。」「酪農学園は酪農民の浄財でできた学園です。」「とは、開学の祖、黒澤西蔵氏の言葉です。」

この言葉が示唆するよう

に、今日ここに至るまで多くの苦難に遭いながらも多くの方々に支えられながら独特の教育を実践し、酪農学園は北海道の重要な基幹産業である農業・酪農・獣医療の発展、ひいては日本、世界の農業・酪農・獣医療の発展に大きな貢献をしてきている。

我々、学校法人酪農学園は、1933年(昭和8年)10月の北海道酪農義塾設立から数え、今年で90年目を迎えた。今、あらためて開学に至るまでの歴史と、ここまでの歩みを学内で共有している。そこに我々が目指す目的があると考えているから。

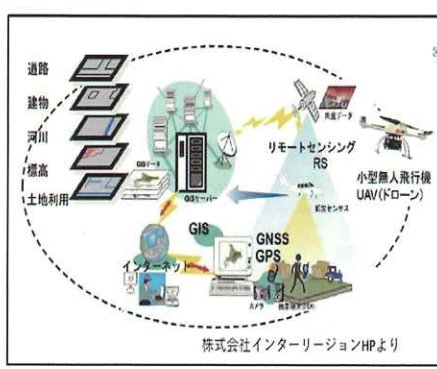
酪農学園の実学教育の基軸となる理念は、黒澤西蔵が描いた『循環農法図』に集約されている。その意味するところは、今まさに世中が取り組んでいる17項目のSDGsとも見事に一致している。

あと10年で、酪農学園は開学100周年を迎える。ここからが勝負だ! 『食の安全保障』の重要な

90年前から、SDGsを志向



役割を担う農畜産業の持続・発展には、環境負荷を極小化したサステナブルな農畜産業の実現はもちろんのこと、世界最高水準な先進獣医療体制の構築、加えて理想的なアニマルウェルフ

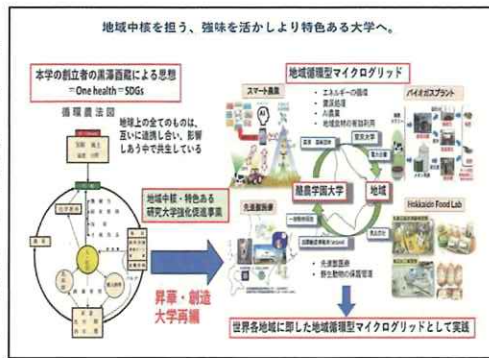


株式会社インターリジョンHPより

エリアの具現化や野生動物と共生できる社会の実現など、

様々な社会課題の解決を同時に達成していく必要がある。そのためには、高校・大学の他には無い連携など、酪農学園の得意技をさらに進化させていきたい。

キーワードは、『学生・生徒1st』。人づくりである。これまで経験してきたチームビルディングに欠かせない様々な見識を、全て酪農学園に注いでいくつもりである。



学生、保護者、教職員、卒業生、支援者、そして地域社会・・・全てのステイクホルダーにとって、魅力溢れる酪農学園に変貌し続けるための鍵は、全てのステイクホルダーとのタテ・

ヨコ・ナナメのコミュニケーション。そこからワクワクするような知恵や発想をどれだけ引き出すことができるかだと考えている。特に地域社会と！

さる10月23日には、首都圏における情報発信・社会との交流リアル基地として、浜松町に『酪農学園東京プラザ』もオープンした。『酪農学園大学付属とわの森三愛高校』の生徒たちの活動の展示をはじめ、『酪農学園大学』での教育・研究成果、加えて、酪農学園内の食品加工実習センターでつくられている手作りの乳製品や、酪農学園の卒業生たちが立ち上げた会社の商品なども紹介している。どうぞお立ち寄り下さい。

希望に満ち溢れ、開学100周年を迎えたい！公益財団法人全国学校農場協会のホームページ

(<http://www.nojokyokai.or.jp/>)でも御視聴できます。

Ⅲ 分科会協議

(1) 4分科会代表者発表に対する協議

(2) 分科会の関連分野に関する情報交換

Ⅳ 研究協議会

1 令和5年度大学推薦入学に関する調査

山梨県立農林高等学校

里吉 正年

2 教育課程に関する調査

千葉県立市原高等学校

小澤 みさ子

3 農業関係高校における特色ある取組

茨城県立石岡第一高等学校

松原 秀雄

V 分科会報告

★紙面の都合上詳細については、研究集録(第61号)に掲載させていただきましました。

Ⅵ 指導講評

講師 文部科学省初等中等教育局 参事官(高等学校担当) 付産業教育振興室教科調査官

遠藤 友治



先生方、改めまして、こんにちは。いつも大変お世話になっております。どうぞよろしく願います。

昨日は、農業高校が、おかげさまで、本当に多くの方に応援していただいているというのを改めて実感し、本当にうれしく思ったところでした。また、素晴らしいご発表、ご講演等も拝聴することができ、有意義な時間でした。

さて、先日の農業クラブの全国大会や全国さんフェア等々、生徒たちが一生懸命に農業の学習に取り組み、全国でいろいろと活躍していることを本当に嬉しく思っているところでもあります。まずもって、先生方には、日頃より農業教育の充実・発展のため、大変な御尽力いただいていることに、心より敬意を表します。

さて、この度、特に発表に関わられた先生方、大変ご多忙の中、すばらしい研究への取組、発表の準備等、本当にお疲れ様でした。ご発表に関しまして、まず、データサイエンス教育、プ

ログラミングや、ICTを活用した教育に関するご発表がございました。学習指導要領解説の情報編で、特に御確認いただきたいポイントが、「プログラミン」に係る内容です。大学入試共通テストに「情報」が加わったこともあり、科目「農業と情報」を履修することによって「情報I」を代替する場合には、各学校には説明責任が求められる点にご留意いただきたい。

「代替とはいえ、生徒や学校の実情から、実際にはそこまで対応するのは難しい」「ワード・エクセル・パワーポイントの操作なら教えられるし、生徒が就職してからタイピングやプレゼン作成は役立つ」「情報免許を持つ教員を探してもらいたい」等の声があるのは伺っております。

しかし、情報活用能力の育成を図るにあたり、以前多く見られたようなアプリケーションソフトの扱い方やタイピング練習だけに終始した指導は適切とは言えません。

学習指導要領(情報)に記載されている「情報を主体的に収集判断・表現・処理・創造し、受け手の状況を踏まえて発信・伝達できる力や情報モラルといった情報活用能力を含む学習の充実」といった内容を、「農業と情報」等の代替科目で担っていることに、ご留意いただきまして、各校において工夫・改善を引き続き願います。

なお、文科省が「向上にアップしている「情報I」教員研修用教材等では、プログラミング自体の解説に加え、授業展開などについても示されているため、御覧いただければと思います。

また、関連する事項として、令和5年度補正予算案に高等学校「X」加速化推進事業が計上されました。11月13日付けで、教育委員会宛て事務連絡しているところですが、補助対象例として、「ICT」機器整備・専門高校の高度な実習設備整備・専門人材派遣等業務委託費なども示されてございます。

続いて、いろいろな「連携」を核とした、実践事例に関連しても一点お話しさせていただきます。

文部科学省では、専門高校等と産業界等が連携して、最先端の職業人材育成を推進する「マイスター・ハイスクール事業」を令和3年度より開始しております。現在、農業関係高校の指定校は全国で6校あります。文科省の「E」に取組状況の詳細が公開されてございますので、是非参考にしていただけたら幸いです。

なお、まだ予算要求の段階ではありますが、本事業は、来年度以降も、より、手を上げやすいかたちで、継続していく予定でございます。

是非、各都道府県で手を上げ、産業界との連携の取組に係る予算や設備備品等の購入などに、この予算を有効にご活用ください。

今回の農業学習の目標にある「系統的に」では、例えば1年次の「農業と環境」、「総合実習」で学んだ「プロジェクト学習」を、次の

公益財団法人 全国学校農場協会 編集・発行

農業学習ノート ダイコン・トウモロコシ

科目「農業と環境」副読本として利用を！
価格 350円
(送料・払込料金協会負担)

予約受付中・詳細はHPを



「作物」、「栽培と環境」で継続し、最後に「課題研究」で更に深く展開していく、そういった視点も重要です。まさに、農業教員としての創意工夫が期待されるところです。

「生産だけで精一杯だからプロジェクト学習はできないよ。」とならないように、生産と並行して、調査、観察、実験、記録などを効果的に実施し、最終的にはその結果を分析、考察、評価してまとめる、こういった「プロジェクト学習」の視点を踏まえた学習を、日々

の授業の中で、効果的に取り入れて、農業学習の質を高めていくことが求められているわけでございます。

さて、先生方のご発表を拝聴し、「農業高校こそ、学びの最先端を実現している」そんなふうにも、改めて感じるところです。農業高校が魅力なのは、先生方が、現実の問題としっかりと向き合っておられるからだ、こんなふうにも強く感じました。

Ⅶ 閉会式

1 開式の辞
北信越支部長 蛭田 淳

2 挨拶
公益財団法人 全国学校農場協会 評議員 戸塚 厚生

記念品贈呈
田原 良敏 戸塚 厚生

※農場協会の顧問として永年のご尽力に感謝をいたします。感謝を込めて記念品を贈呈させていただきます。

3 閉式の辞

近東支部長 村上 怜

4 連絡事項

事務長 須賀 秀次

「食」「緑」「人」の分野の
プロフェッショナルを育成

環境園芸学部
環境園芸学科
人間発達学部
子ども教育学科

健康栄養学部
管理栄養学科
食品開発科学科

南九州大学
MINAMI KYUSHU UNIVERSITY

